

平成30年11月8日

健康福祉サービス第三者評価結果 公表 共通様式

1 事業者情報

福祉サービスの種別	保育
事業所名	水口北保育園
代表者氏名（管理者）	園長 外池 智子
法人名	社会福祉法人 ひまわり会
定員（利用人数）	180名（202名）
施設・事業所所在地	滋賀県甲賀市水口町松尾1202番地2
T E L	0748-62-1085
F A X	0748-63-8617
電子メール	himawari2@silk.ocn.ne.jp
ホームページアドレス	http://www.himawarikai.ed.jp/minakuchikita

2 第三者評価機関

第三者評価機関名	ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター
評価実施期間	平成30年8月21日、23日の両日

3、 評価の概要

○ 総合評価

2001年秋に水口町から公設民営保育園の運営を受託してほしいとの申し入れを受け「町のため、町に住む子ども達のために役立つなら」との強い決意をもって12月に社会福祉法人ひまわり会を設立、2002年4月から公設民営柏木保育園がスタートした。順調に園運営が進行する中で、2004年には再び公設民営保育園の運営を受託してほしいとの申し入れを受けてスタートしたのが本園水口北保育園である。

2005年には、当法人理事長は甲賀市保育会初代会長に就任した。

2009年から両園の建物を甲賀市から譲渡され、名実ともに民設民営保育園となった。

設立折衝時に現理事長から当時の町長に提出された「私の信条」は、

- ① 社会福祉の道は世の中で最も尊い仕事であることを誇りにしましょう。
- ② いつも小さないのちをお預かりしていることを片時も忘れないようにしましょう。
- ③ 園に来られるどの人にも心を込めて明るい笑顔と元気な声で挨拶しましょう。
- ④ どんなことにも感謝の気持ちを忘れないようにしましょう。
- ⑤ 職員同士お互いに励まし合い、仲良くしましょう。

本園は「いのちを大切に育てる」「心身共にたくましい子に育てる」「自分のことは自分で育てる」「人の思いに気づける子に育てる」「感性や創造性のある子に育てる」「考えて行動する子に育てる」「自分の思いが表現できる子に育てる」を保育目標に掲げ、園運営のベースになっている理念に沿った豊かな人間性の向上をめざす職員の保育実践により、子どもたちが元気にのびのびと朗らかに育ち巣立っていく等、保護者の評価も高い保育園である。

○ 特に評価の高い点

1. 理事長以下全職員の保育への一体化した取り組み

ひまわり会の5つの基本理念については、職員会議において全職員に浸透し続ける様努力している。理事長は人づくりの信念に基づいて、当該月のトピックスを交えて基本理念に基づくメッセージ（A4版1ページ）を作成し、創設以来今日まで毎月全職員に配布し、各理事、監事に郵送している。職員との年2回の個別面談を充実させながら、技術を磨く事で以上に人間性を磨く事の大切さに気づいてもらうよう努力している。

新入職員には、相談やメンタルケアを目的に先輩職員を指名し、チューターとなって支援する新入職員チューター制度を今年度から導入している。

保育士はお互い午睡の時間、終業時のわずかな時間を捉えて、新しいアイデアがないか、より良い方法はないかを話し合い、「楽しい園づくり」を目指して常に笑顔で子どもたち一人ひとりに視線を合わせて、寄り添うことが出来るよう努力している。

2. 地域の自然環境に親しみ、守り育てる取り組み

NPO法人が運営する里山遊びが、カリキュラムに組み込まれ、子ども達も大喜びで、その日が

来るのを待ち望んでいる。ボランティアの支援を受け、ツリーハウス、手作り遊具で自然の中で遊び、身近な自然を楽しみ、親しみを感じている。農園では、野菜の種まき、苗植えから収穫まで地域の先輩から指導を受け、自然の働きや恵みを感じ取り、収穫した芋からスイートポテトを作り、里山の遊びでお世話になった方々を招待してもてなしをしている。

3. 食育の取り組み

食べることと生きることが深く関係していること、動物や魚や野菜のおかげで人は生きていることに気づかせながら、よく噛んで食べ、食べ物を好ききらいしないで何でも食べるように目標を個々に持ちながら食べることを楽しんでいる。「クッキング」で自分たちが材料を調理する楽しさを体得して、家の人や給食の先生への感謝の気持ちを感じる事を目指す等、食育について整理した食育プロジェクトの纏めが、全職員に周知され保護者への啓発にも機会あるごとに力を注いでいる。

4. ボランティア活動の取り組み

市や地域周辺の各種団体に協力してもらい、サッカー教室、囲碁教室の指導者、里山遊びのNPO、野菜作りの指導など、子どもたちが喜ぶボランティアを受け入れる支援体制を整えて、年間カリキュラムに組み込んでいる。スタート直後から各関係先との関係づくりに参加し、今日では協議体制も確立している。

5. 一時預かりの取り組み

2017年度合計で利用児童数345人、合計時間数約2,300時間余の実績を示している。自宅保育の子ども達で保護者の急用、仕事、介護などで、保育園での一時預かりを利用された結果の数字であるが、地域ニーズに応え地道に努力してきた地域貢献度は多大であると思われる。

6. 看護師の常駐体制

看護師を配置し、けがや病気にいつでも対応できる体制を整えている。(土曜日は除く) 家族と連携し、不調を訴える園児には、個別指導計画を作成し、与薬の依頼がある場合には適切な対応している。常に子どもを見守り体調の変化にも迅速に対応できるようにしている。

7. 中期5か年計画の取り組み

ひまわり会の開園から現在までの園運営内容、子どもを取り巻く環境の変化、地域内の保育園、小学校の現状をまとめ、今後の目指す方向として中期5か年計画を作成している。今年度には本部棟が新築完成となり、本部が使用していた一室は本来の使用目的であった園児の発達検査、保護者等の相談対応、職員の休憩室に戻ることとなった。

8. タイムカプセルの取り組み

最初の卒園児から、思い出の「子どもの作品・記念品など」をタイムカプセルに入れ園庭に埋め込んで保管し、卒園児の6年生3月に開封の集いを行っている。園児、保護者と理事長以下関係のあった保育士たちが集い、当時のまま出て来た懐かしい品々を話題に、当時を振り返る楽しいひと時となり、園児の成長に感激し、保護者との再会も昔話に花が咲き、お互いに感謝の気持ちが交流する機会となっている。

埋蔵の集いでは、対象園児とその保護者全員都合をつけて参加している。開封の集いには、2017年には50組、2018年には33組の小学6年生とその保護者が参加している。

○ 改善を求められる点

1. 通常保育から延長保育への連絡のための引継帳で、報告を受けた人、申し送った人、保護者に伝えた人等の確認の欄がない。伝達事項の確認等を速やかにしたり、内容の訂正などに速やかに対応するには、それぞれの担当者の記名が必要と思われるので様式の見直しが必要と思われる。
2. 玄関部にスロープを設けバリアフリーとなっているが、保育室から園庭や中庭への間に段差がある。車椅子や乳児用のベビーカーなどにとって一貫したバリアフリー化が連動できる状況になればたくさんの園児にとっても利便性がもたらされると思われる。
3. ヒヤリハット記録で、ヒヤリハットの数が少ないと思われる。ヒヤリハット300件で1事故発生するという統計結果から見て、このようなベースで取り組まれているかどうか、ヒヤリハットのチェックや検討を期待したい。ヒヤリハットは多くの分野で成果を発揮していることから、日ごろの安全な保育にとって大切な手段だといえよう。
4. 遊戯室には楽器を備えているが、各保育室には置かれていないように思われた。保育室でも楽器が楽しめるように工夫がなされ、それを楽しむ子ども達の姿を期待したい。

4、 第三者評価結果に対する事業者のコメント

全体的によい評価のようにまとめて頂いている感じを受けました。

保護者アンケートや実際の現場をみて頂いた中で、更によくするにはどのようなことに気をつけるべきか、もう少し厳しい指摘があるものかと思っていました。

ヒヤリハットに関しては、ノートに記入して、全員で周知しているものもあるが、確かにもっと全職員がヒヤリ、ハッと気づける目が育つといいと思う。

ひまわり会の二つの園しか知らない職員が多い中、第三者的に見てもらい、改善すべき点をもっと上げてもらえと思っていました。